JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.213
ISSN 1340-9913

INDEX

第 32 回通常総会およびシンポジウムのご案内（第二報）..... 2
第 32 回全国大会のお知らせ（第二報）..... 3
国際学会 ICoME 開催のご案内 12
日本教育工学会　2016 年度夏の合宿研究会（第一報）..... 13
研究会の開催案内「テーマ：高等教育における教育方法・FD・IR ／情報教育／一般」... 14
研究会の発表募集「テーマ：教育の情報化／一般」..... 16
研究会の開催報告「テーマ：ICT を活用した学習支援環境・基盤／一般」..... 16
2015 年度　冬の合宿研究会報告 17
2015 年度　大学教員のための FD 研修会の報告 18
特別企画（実践研究活性化）セミナー 開催報告 19
2015 年度　産学協同セミナー報告 20
SIG 研究会の開催報告 22
　SIG-02 教師教育・実践研究 22
　SIG-09 質的研究 23
　SIG-08 メディア・リテラシー，メディア教育 25
日本教育工学会第 16 期第 7 回理事会議事録 26
新入会員 27

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

第 32 回通常総会およびシンポジウムのご案内（第二報）

第 32 回通常総会とシンポジウムを下記のように開催いたします．あらかじめご予定ください．

1．日時　2016 年 06 月 18 日（土）10:00～16:00（受付 09:30 より）

10:00～12:20　ラウンドテーブル
12:20～13:00　総会
総会終了後 理事・評議員会
14:00～16:00　シンポジウム

2．会場

大阪マーチャンダイズビル
http://www.omm.co.jp/ （New Education Expo2016 会場）
京阪電車「天満橋」駅東口，地下鉄谷町線「天満橋」駅北改札口から OMM 地下２階に連絡

3．総会の議事

第１号議案 2015 年度（2015.04.01-2016.03.31）事業報告及び収支決算承認の件
第２号議案 2016 年度（2016.04.01-2017.03.31）事業計画及び収支予算案承認の件
その他

4．ラウンドテーブル「アジアと連携する教育工学研究」

ICT を活用した授業，規律正しい生活，学級という文化など，日本の教育経験を活用し，アジアの国々の教育水準を高めていくことは，グローバル時代の教育工学研究者に求められる重要な課題であるといえる．教育工学研究者はアジアの国の教育を改善していくためにどのような協働ができるのだろうか．本シンポジウムでは，カンボジア，フィリピンの二カ国から研究者を招き，それぞれの国の教育の現状を報告してもらい，今後日本の教育工学研究者とどのような協働ができるか，その可能性を探る．

司　会　久保田賢一（関西大学）
登壇者　**文部科学省**　井上睦子氏（文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長）
「日本型教育の海外展開推進プロジェクトについて」
カンボジア　オウム・ラビィ博士（国際関係学）（王立プノンペン大学 副学長）
フィリピン　ファーディナンド・ピタゴン准教授（教育工学）
（フィリピン大学教育学部（デリマン校））
指定討論　山西潤一（日本教育工学会会長・富山大学名誉教授）

5．シンポジウム「アメリア・アジアをつなぐ ICT 教育の実践」

本シンポジウムでは，アクティブ・ラーニング理論などアメリカから AECT 前会長 ロバート・ブランチ博士の講演を参考にしながら，アジアの次の連携を論議する．これまで海外の学校と協働して教育実践を行っている学校の発表を基に，国際交流学習の可能性と課題について論議する．また教育のグローバル化を図るための手立てを探る．

司　会　影戸　誠（日本福祉大学）
講　演　「ICT 活用と学習理論」　ロバート・ブランチ博士（AECT 前会長）
登壇者「グローバル・ハイスクール，WYM 参加校」
浅川行弘教諭（立命館大学中学高等学校（SGH））
岩見理華教諭（神戸大学附属中等教育学校（SGH））
佐藤慎一教授（国際連携プロジェクト WYM 幹事校 日本福祉大学）
指定討論者
文部科学省　井上睦子　（大臣官房国際課国際戦略企画室長）
日本教育工学会　山西潤一　（日本教育工学会会長・富山大学名誉教授）
カンボジア　オウム・ラビィ博士（王立プノンペン大学 副学長）
フィリピン　ファーディナンド・ピタゴン准教授
（フィリピン大学教育学部（デリマン校））

第 32 回全国大会のお知らせ（第二報）
大会 Web ページ：http://www.jset.gr.jp/taikai32/

日本教育工学会第 32 回全国大会を，下記のように大阪大学において開催します．多くの方々のご参加をお待ちしています．また，研究発表にも奮ってご応募ください．

１．開催期日・会場

期日：2016 年 09 月 17 日（土）～19 日（月・祝）
会場：大阪大学豊中キャンパス 全学教育推進機構 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16
http://www.osaka-u.ac.jp
（会場までのアクセス：http://www.celas.osaka-u.ac.jp/access）

最寄り駅は阪急宝塚線石橋駅および大阪モノレール柴原駅です．阪急宝塚線石橋駅から会場までは長い上り坂があります．会場に直結するバスはありません．自家用車でのご来場には対応できません．なお，宿泊については「**17．宿泊について**」をご参照の上，ホテルの確保にご注意ください．また，キャンパス内は全面禁煙となっております．

２．大会日程

09 月 17 日（土）	09 月 18 日（日）	09 月 19 日（月・祝）
08:15～17:00　受付 09:00～11:00　一般研究発表 1 International Session 1 （口頭発表） 11:10～12:30　一般研究発表 2 （ポスター発表） チュートリアルセッション 12:30～14:00　昼食，理事会 企業ランチセッション 14:00～15:20　一般研究発表 3 （ポスター発表） 15:30～18:00　SIG セッション 1	08:30～17:00　受付 09:00～11:40　一般研究発表 4 International Session 2 （口頭発表） 11:50～13:10　一般研究発表 5 （ポスター発表） 13:10～14:10　昼食，各種委員会 14:10～15:10　全体会 （表彰，会長講演） 15:10～17:40　シンポジウム 18:00～20:00　懇親会	08:30～15:00　受付 09:00～11:00　一般研究発表 6 （口頭発表） 11:10～13:10　一般研究発表 7 （口頭発表） 13:10～14:10　昼食 14:10～16:40　SIG セッション 2 16:50～　大会企画委員会
09:00～16:00　企業展示	08:30～14:10　企業展示	

＊　プログラム編成によっては，時間帯が若干変わることもあります．
＊　企業展示が第１日目，第２日目に開催されます．ぜひ見学にお立ち寄りください．
＊　初日昼休みには，無料ランチ付きの企業ランチセッションを開催します．
＊　ワークショップは，大会初日の前日 09 月 16 日（金）の 16:00 から 18:00 に開催されます．

託児所の提供について

前回大会に引き続き，大会期間中，託児所を提供する予定です．料金等，詳細は検討中です．決まり次第，大会 Web サイト，ニューズレター等でお知らせいたします．

昼食について

17 日（土）は学内食堂や売店が営業していますが，18 日（日），19 日（月・祝）は休業します．18 日（日），19 日（月・祝）のみ，事前予約のお弁当を用意しますので，ご希望の場合は事前支払期限までに参加費等とともにご送金ください．なお，石橋駅周辺には飲食店が多数あります．コンビニはキャンパスの周辺にあります．

３．今大会での注目点・注意点

前回大会に引き続き，“現代的教育課題に対する SIG（Special Interest Group）セッション”を開催します．今大会では，１日目の午後と３日目の午後に分けて行います．

- 本学会に初めて参加する方のために，１日目の午前にチュートリアルセッションを行います．
- 講演論文集はこれまでの CD-ROM 版から USB メモリ版に変更になります．
- 参加費は，USB メモリ版の講演論文集込みの価格となります．

・ 前回大会と同様，企業ランチセッションが初日の昼に行われます．企業ブースへの出展企業から各３分程度のプレゼンテーションをして頂きます．参加者には，先着 150 名程度（予定）にランチを提供いたします．

４．シンポジウム

大会２日目の午後には「ビッグデータ時代の学習支援・学習評価のあり方～教育工学研究の視点から～（仮）」のテーマのもとシンポジウムが開催されます．詳細は後日お知らせいたします．

テーマ　「ビッグデータ時代の学習支援・学習評価のあり方～教育工学研究の視点から～（仮）」

司　会　美馬のゆり氏（公立はこだて未来大学）

登壇者　西尾章治郎氏（大阪大学），緒方広明氏（九州大学），山内祐平氏（東京大学），美濃導彦氏（京都大学），寺澤孝文氏（岡山大学）

内容：初等教育から高等教育まで，教育における ICT 利用が本格化するなかで，様々なデータが記録され，蓄積されてきています．教育工学研究においては，集めたデータの分析にとどまらず，それらをもとに学習支援，学習評価につなげていくことが求められています．

本シンポジウムでは，科学技術・学術政策として学術情報利用の基盤作りを推進している西尾章治郎大阪大学総長をお招きし，社会における学術データ利用の方向性をお話しいただきます．

日本教育工学会からは，大学組織におけるデータ活用（九州大学），教育実践（京都大学），MOOC+反転学習（東京大学），Learning Analytics（岡山大学）の概況と動向から，教育工学にどのように貢献できるか，貢献すべきかを考えます．

５．チュートリアルセッション

本学会にはじめて参加する方のために，１日目の午前にチュートリアルセッションを行う予定です．このセッションでは，本学会の活動内容について，たとえば教育工学選書や SIG 活動などの紹介を通して，本学会が対象とする学術分野や研究のテーマ，これまでの研究知見の概要を説明します．大学院生や現職教員，教育工学に関する研究に取り組もうとする研究者の方々を対象とします．

詳細が決まり次第，大会 Web ページならびにニューズレターに詳細を掲載いたします．

６．SIG セッション

SIG は，年間を通じて現代的教育課題に対する研究を深める時限付きのグループです．本大会においては，SIG セッションとして，それぞれの SIG における活動について，コーディネータが中心となって，発表や議論の場を設定します．大会１日目の午後と３日目の午後に分けて以下のとおり行います．

開催日	SIG 名	原稿の受付
09 月 17 日（土） 15:30～18:00	SIG-06　協調学習・学習科学	なし
	SIG-07　インストラクショナルデザイン	なし
	SIG-08　メディア・リテラシー，メディア教育	なし
	SIG-09　質的研究	なし
	SIG-11　情報教育	一部公募

開催日	SIG 名	原稿の受付
09 月 19 日（月・祝） 14:10～16:40	SIG-01　高等教育・FD	すべて公募
	SIG-02　教師教育・実践研究	SIG 指名のみ
	SIG-03　教育・学習支援システムの開発・実践	一部公募
	SIG-04　教育の情報化	SIG 指名のみ
	SIG-05　ゲーム学習・オープンエデュケーション	SIG 指名のみ
	SIG-10　コンピテンシースタンダードと能力評価手法の開発	一部公募

■SIG-01　高等教育・FD

SIG-01 では「データに基づいた教育・学習改善の現状と課題」というテーマで全会員から広く原稿を募集します．近年 IR や LA など，大学内のデータを分析する動きが広まっています．また，大学教育再生加速プログラムなどでも学習成果の可視化は重要なテーマとなっています．一方で，こうしたデータ分析で，何がどこまでわかるのか，分析の結果を実際にどのように教育・学習の改善に使えばよいかについては，知見の蓄積が求められています．本セッションでは，教育・学習の改善を指向した IR や LA などの取り組み，データに基づいた FD の取り組みなどの具体的な事例を会員から募集し，それらの報告を踏まえて議論を深めたいと思います．

■SIG-02　教師教育・実践研究

自らの実践を対象化し，学び続けるリサーチマインドを保持した教師が求められるなか，SIG-02 では，教師教育と授業研究を密接に関連づけながら研究会や SIG セッションを推進してきました．近年，Lesson Study や Learning Study が世界中で取り組まれている状況を踏まえると，日本教育工学会がこれまで蓄積してきた授業研究の知を，世界的な視野から問い直すことが重要です．そこで本大会では，教育工学的な視点・アプローチによる授業研究に焦点をあてます．３名の登壇者からの情報提供とグループ討議を通して，教育工学的な視点・アプローチによる授業研究の特徴や意義，それがいかに授業改善や教師の力量形成に寄与できるのか等について議論を行います．

■SIG-03　教育・学習支援システムの開発・実践

教育・学習支援システムの開発・実践の SIG セッションでは，まずこれまでの SIG 研究会で取り扱ってきたトピックの研究動向について紹介します．ラーニングアナリティクス，学習センシング，CALL などのテーマについて報告します．その他にも，情報工学的なモデルや技術を基盤としたシステム開発，教育実践の場のニーズとマッチングさせた事例などの研究報告や問題提起など，発表を数件募集します．また，一般研究・ポスター発表の「教育・学習支援システムの開発・実践」カテゴリーでの研究発表も踏まえた総合討論を行いますので，本 SIG に興味をお持ちの方はぜひ当該カテゴリーでの発表をご検討いただきますようお願いします．

■SIG04　教育の情報化

教育の情報化 SIG では，研究・実践のプロジェクトを立ち上げ，ワークショップ並びに全国大会でのミニ・シンポジウム等を通して深めていきたいと考えております．プロジェクトは，「資質・能力としての情報活用能力の育成と評価」，「１人１台タブレット環境における実践的研究」その他，メンバーからの提案も踏まえて決定し，参加者を募りたいと考えております．全国大会の SIG セッションでは，プロジェクトに参加されている研究者，実践者から事前にお願いした方に予稿の原稿を提出戴き，ミニ・シンポジウムにご登壇戴いて研究を深めたいと考えております．詳細につきましては，SIG のメーリングリスト並びに Facebook で公開していきます．

■SIG-05　ゲーム学習・オープンエデュケーション

本 SIG では，ゲーム学習とオープンエデュケーションの研究動向や論考をまとめた「SIG レポート」を年１回発行しています．本セッションでは，昨年に引き続き，全国大会開催に合わせて公開する SIG レポートの内容をベースとして，各分野の研究課題や今後の研究の展開に向けた発表と議論を行います．この分野の研究者や，研究・実践のための連携に関心のある方が活動を進展させる場となるセッションを企画しています．

■SIG-06　協調学習・学習科学

SIG-06 では，深い学びを促すためのアクティブ・ラーニングのあり方について検討を行います．近年，アクティブ・ラーニング型授業は，大学だけでなく，初等・中等教育の授業においても幅広く取り入れられつつあります．また，大学から職場へのトランジションを促すという点でも注目が集まっています．しかし，１．どのように授業をデザインすれば学びを深められるのか，２．よい授業をつくるために教員同士がどのように関わり合うべきか，３．どのように効果を測定するか，等については今後も議論が必要です．そこで本セッションでは，この分野で活躍している研究者やデザイナーに具体的な事例紹介や問題提起をしていただき，参加者とともに議論します．

■SIG-07　インストラクショナルデザイン

SIG-ID（インストラクショナルデザイン）は，昨年度に発足して以降，ID の普及や研究の促進を目的に活動を進めております．本 SIG セッションでは，ID の研究をどのように進めていけばよいのかについて，参加者相互で深めていく場としたいと考えています．当日は，SIG-ID メンバーからの話題提供や，事例をもとにしながら ID を実践に取り入れて研究を進める方法を検討するグループワークなどを予定しています．詳細は，Facebook 等でも案内をしていく予定です．皆様のご参加をお待ちしております．

■SIG-08　メディア・リテラシー，メディア教育

わが国では，学術研究の発展を目的として科学研究費（以下，科研費）助成事業が行われています．これまで，この助成を受けて数多くの「メディア・リテラシー，メディア教育」に関する研究が行われており，独創的・先駆的な研究成果が残されています．本 SIG セッションでは，「メディア・リテラシー，メディア教育」をテーマとして科研費の助成を受けて研究を行ってきた研究者から，研究計画・具体的活動・成果について報告します．また，その事例を参考にしつつ，これから科研費の助成に申請しようと考えている研究者の研究計画を参加者で相互に検討するワークショップを行います．どなたでも参加できるセッションです．お待ちしております．

■SIG-09　質的研究

質的研究 SIG セッションでは，教育工学研究を質的研究が依拠するパラダイムから捉えることの面白さを参加者と共有し，その際の方法論について議論することを目的とします．はじめに，教育工学における質的研究の意義について，前年度のセミナー等での議論も交えて共有します．次に，90 年代にみられた教育工学における研究アプローチの転換について，大谷尚先生（名古屋大学）のお話を伺います．後半は，質的研究だからこそ明らかになった特徴のある研究をいくつか紹介し，これをもとに参加者間でダイアログセッションを持ち，みなさんの研究領域でどのような質的研究ができるかについて一緒に考えたいと思います．

■SIG-10　コンピテンシースタンダードと能力評価手法の開発

SIG-10 は，「知識・理解，思考・判断，人間性・社会性を総合的に育成するカリキュラムや指導法の実践的研究」というテーマで，下に示す 3 件の発表を予定しています．この他に，05 月 15 日（日）時点で SIG-ML に登録されている方から最大 2 件の発表を募集し，総合討論を行います．応募方法・採択の観点・投稿方法や締め切り等の詳細は，05 月 16 日（月）に ML にて連絡します．

・玉田和恵（江戸川大）：問題解決力と情報モラルを養う情報リラテシー教育のカリキュラム
・岡田佳子（芝浦工大）：ソーシャルスキル教育の指導・評価法とゲーミング教材の可能性
・遠藤信一（東工大附属科技高）：工業専門教育の入り口・出口としての技術者モラル教育

■SIG-11　情報教育

ペッパーやパルミなどのヒューマノイドロボットやドローン，無人自動車，東ロボやアルファ碁など人工知能分野がめざましく進展しています．そこで，テーマを「AI 時代の情報教育」とし，教育で対応すべき事と，法律で取り締まるべき事について議論します．話題提供後，パネルディスカッションを行います．司会者：徳野淳子（福井県立大学），話題提供者：法律家の立場から小林正啓弁護士，情報教育の立場から加納寛子（山形大学）ほか 1 名を予定しています．指定討論者：心理学の立場から，戸田有一（大阪教育大学）を予定しています．この他，投稿を広く受け付けます．ただし審査が有ります．詳細は ML において連絡いたします．

７．一般研究（口頭発表とポスター発表）

一般研究発表は，口頭発表とポスター発表に分かれます．どちらの発表も同じ一般研究発表であり，口頭発表とポスター発表に質的な優劣はありません．発表目的に合わせてご選択ください．なお，プログラム編成の都合上，口頭発表とポスター発表の発表形式のご希望に添えない場合があるかもしれません．ポスター発表の枠を増やした場合，口頭発表で申し込まれていてもポスター発表になる場合もあります．あらかじめご了承ください．ポスター発表者は，発表セッションの時間帯は，ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません．

（1）高等教育の教育方法　（2）FD，IR　（3）教師教育　（4）授業研究　（5）教育・学習支援システムの開発・実践　（6）学習コンテンツ開発・評価　（7）遠隔教育，遠隔学習　（8）反転授業　（9）eポートフォリオ　(10) 情報教育　(11) 情報モラル　(12) 教科指導におけるICT活用　(13) メディア・リテラシー，メディア教育　(14)　e-Learning　(15) ゲーム学習　(16) オープンエデュケーション　(17) 認知と学習　(18) 協調学習，学習科学　(19) 教育評価，データ解析　(20) 授業設計，授業実践　(21) インストラクショナルデザイン　(22) ワークショップ　(23) 語学教育，国際理解　(24) 特別支援教育　(25) 生涯学習　(26) 企業内教育　(27) 看護教育，福祉教育　(28) 保育，乳幼児教育　(29) 質的研究　(30) 教育改革，学習指導要領改訂　(31) 共同，連携，合意形成　(32) その他

８．International Session

昨年度に引き続き，International Session は全国大会とは切り離して国際交流委員会を中心に実施・運営し，充実させる方向を目指します．

本セッションの発表及び質疑応答は，英語で行われます．本セッションは，教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに，特に若い研究者に対しては，国際学会等での研究発表や討論に備える体験を提供する機会でもあります．

発表は，大会１日目・２日目に一般研究の口頭発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます．本セッションは下記の２つのテーマで実施されます．

（1）System/Product Development and others
（2）Lesson Study/Teaching Method and others

９．ワークショップ

ワークショップは大会企画委員会が中心となって開催します．このワークショップは，主催者が設定した教育工学に関連するテーマについてインフォーマルに語りあう場です．実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や，新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行って頂くことを考えております．ワークショップは主催者主導で進行して頂きます．なおプログラム集には，ワークショップテーマ名・主催者/共催者名・概要が掲載されます．大会論文集へ原稿は掲載されません．

テーマは公募といたします．会場の都合から，大会企画委員会では７，８件程度を上限として採択いたします．あらかじめご了承ください．議論を通じて，教育工学に関心を持つコミュニティが作られ，発展していくことを期待しています．積極的なご応募をお待ちしております．

ワークショップの日程は，大会初日の前日 09 月 16 日（金）の 16:00 から 18:00 を予定しております．

応募のスケジュール：

06 月 02 日（木）～06 月 23 日（木）	ワークショップ テーマ受付期間
06 月 30 日（木）	ワークショップ テーマ決定（採否結果通知をいたします）

応募方法・応募先：

電子メールにて，ワークショップ主催者と共催者の氏名，ご所属，メールアドレス，ワークショップ名と概要（300 字程度）を大会企画委員会ワークショップ担当（taikai2016-ws@jset.gr.jp）までお送りください．

なお，件名は「ワークショップ応募」としてください．

10. 発表時間

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）.

[一般研究]　＜口頭発表＞発表 14 分　質疑応答５分（昨年と同じです）

＜ポスター発表＞80 分（昨年と同じです）

11. 発表内容の撮影，録音，録画等について

発表者，参加者の双方に次のことをお願いいたします.

1．発表者は参加者が発表内容を撮影，録音，録画する可能性のあることを承知の上で発表してください．参加者に記録されると問題が生じる可能性がある場合には，発表者自身が参加者に記録しないよう指示してください.

2．撮影，録音，録画したものについて，日本国の著作権法が規定している範囲以外で利用される場合は，発表者の許可をとってください.

3．大会スタッフが記録用写真やニューズレター用写真を撮影します．撮影を拒否される方は，記録係のスタッフに撮影しないようお伝えください.

12. 大会までのスケジュール

06 月 02 日	木	ワークショップ　テーマ受付開始 ＊SIG セッション発表申込・プロポーザル（２～４ページ）提出
06 月 23 日 17:00	木	ワークショップ　テーマ受付締切 ＊SIG セッション採択決定通知
06 月 30 日	木	ワークショップ　テーマ決定
07 月 05 日 17:00	火	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払い，振込・振替共に） 一般研究発表／International Session 申込・原稿（２ページ）提出 ＊SIG セッション発表原稿（２～４ページ）提出 ※17:00 が最終締切時刻となります．原稿の差し替えは，07 月 12 日 17:00 までは Web 上で可能です（電子メールによる差し替えは認められません）.
07 月 12 日 17:00	火	提出原稿の差し替え締切 （17:00 厳守．この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません）
08 月 23 日	火	発表者以外の参加費等事前送金期限 （クレジットカード払い，振込・振替共に） （これ以降は送金しない）

＊発表原稿や発表方法はSIGによって異なります.

13. 大会への発表申込等

（1）発表者の資格

・[発表者]は，本学会の会員に限ります．ただし，会員以外が連名者となることは，差し支えありません．ここでいう[発表者]とは，ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく，大会当日発表される方を意味します．この会員には，発表申込時に入会される方も含みます.

・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません．また，[発表者]には，事前に大会参加費を送金して頂くことになっております．ご注意ください．発表原稿送付時に，オンラインで年会費等の納入状況がチェックされます．事前に年会費等の納入をお願いします．なお，大会企画委員会が特に発表を依頼した場合はこの限りではありません.

・ワークショップの主催者は，事前送金締切までに，年会費，大会参加費を納入されていることが，ワークショップ開催の条件となります.

・維持会員に所属する者は，最大３名まで個人会員として加入しなくても発表ができます（大会参加費はお支払い頂きます）．発表原稿をオンラインで登録できるようにするために，該当する発表者を事前に登録します．07月12日（火）までに大会企画委員会（taikai2016@jset.gr.jp）にご連絡ください．この期限を過ぎた後の受付はできませんので，ご注意ください.

（2）発表申込件数の制限

・会員は，一般研究で１件，International Sessionで１件を発表者として申し込むことができます．また，ワークショップ１件を主催できます.

・発表者でない連名者の件数には，制限はありません.

（3）一般研究／International Sessionの発表申込方法

・ 07月05日（火）17:00までに，大会Webサイトから原稿ファイルを提出してください．事前の発表申し込みはありません．この提出によって発表申し込みとします．
・ 発表日時の希望には応じられません．

（4）原稿ファイルの作成と提出

・ 書式は大会Webページに掲載される原稿テンプレートをご参照ください．一般研究の原稿は，A4サイズで２ページです．１ページのものは受け付けません．
・ 論文集の電子ファイルは，論文本文中の文字列の検索が可能になる方法で製作します．このために，各原稿ファイルはPDF/X-1a形式で提出して頂きます．また，PDFだけでなく，元ファイル（MS-Word形式や一太郎形式のファイル）も提出してください．TeXで作成される場合でも，フォントの埋め込み処理が行われていないことがありますので，ソースファイルすべてをひとまとめにして（アーカイブ形式等），提出してください．
・ その他の原稿ファイル作成時の注意点
  1． 冊子体では，原稿サイズ A4 版を B5 版に縮小して印刷します．細い線が消えてしまう場合がありますので，細すぎないように注意してください．
  2． PDF 作成時に，図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります．作成した PDF を印刷してチェックしたのち，投稿してください．
  3． PDF にフォントが埋め込まれているか自信がない場合には，一般的なフォント，文字コードを利用してください．文字コードによっては，検索できない場合もあります．
  4． 提出して頂いたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は，大会企画委員会では一切行いません．

（5）その他，発表に関するお願いや注意点

・ 原稿は，あるレベルで完結した内容であることを求めます．「結果は当日会場で発表する」等の書き方はしないでください．大会企画委員会で判断し，修正を求める場合があります．
・ 類似の内容，シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません．
・ 発表者及び連名者には，大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には，それをご担当頂きますので，予めご了承ください．
・ 講演論文集の発行日は，事前申込者がダウンロード可能になる日です．
・ 提出された原稿の PDF は，学会が Web サイト等に掲載することを許諾して頂きます．

14. 大会の参加申込及び受付等について

大会に参加を希望される方は，以下の手順に従って申し込みをお願いします．

（1）参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は，以下の金額を，事前支払期限までに送金してください．事前支払期限は，発表者の場合，払込・振替の場合もクレジットカード支払いの場合も 07 月 05 日（火）です．発表者以外の方は，払込・振替の場合もクレジットカード支払いの場合も 08 月 23 日（火）です．

参加費	正・准会員（名誉会員は無料）	8,000 円（当日は 10,000 円）
	学生会員	2,000 円（当日は 4,000 円）
	非会員	9,000 円（当日は 12,000 円）
	非会員の学生	4,000 円（当日は 6,000 円）
懇親会費	4,000 円（当日は 5,000 円）	
弁当代	1,000 円（1 食分，当日受付は不可）	

講演論文集代（予定）：冊子体 8,000 円，USB メモリ版のみ 4,000 円，両方 10,000 円

参加費には，プログラム冊子および USB メモリ版講演論文集代を含みます．参加費には，昼食費等の食事代は含まれておりません．ランチセッションは，企業からの協賛費用から先着 150 名程度（予定）にお弁当を提供するもので，参加費とは無関係です．

事前支払期限以降に送金された場合は，当日参加の場合との差額を会場でお支払い頂きます．なお，事前支払期限までに発表者の参加費及び 2016 年度会費の納入が確認できない場合は，発表は取り消しとなりますので，ご注意ください．

08 月 23 日（火）までの変更については，大会企画委員会（taikai2016@jset.gr.jp）までご連絡く

ださい．送金なさった分を次年度の年会費に振り替えることができます．返金はしません．非会員の場合は入会をして頂くことになります．この日以降は，変更を連絡頂いても，原則として振り替え等ができないことをご了解ください．

大会参加費を事前に送金したにもかかわらず，学会事務局に連絡することなく，大会に参加されなかった場合には，その旨を大会企画委員会（taikai2016@jset.gr.jp）までご連絡ください．プログラム冊子と USB メモリ版論文集をお送りします．

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は，「准会員」に会員種別が変更されています．学生会員としての特典はありませんので，ご注意ください．

（2）事前の送金と参加登録について

会員と非会員で参加費等が異なります．JSET Web サイト（http://www.jset.gr.jp/taikai32/）の「参加申込」ページにアクセスしてください．その画面で，①正会員・准会員・名誉会員の場合，②学生会員の場合，③非会員の場合，④非会員の学生の場合を選択できますので，それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします．

また，送金方法として，3 つの方法が準備されます．それらは，①クレジットカードによる支払い，②払込・振替，③当日会場で現金で支払いです．

①「クレジットカードによる支払い」の場合

- 前述の「参加申込」ページで，「クレジットカードによる支払い」を選択してください．
- ただし，その際には学会から発行してご連絡してあります ID・パスワードが必要です．パスワードをお忘れになった場合は学会 Web サイトを参照し，お手続きをお願いします．

②「払込・振替」の場合

- 前述の「参加申込」ページで，「払込・振替」を選択してください．
- その後表示される指示に従って，手続きをお願いします．その際表示される金額と送金内容を，学会からニューズレターと一緒にお送りする払込取扱票に記入して，郵便局の窓口から送金してください．なお，必ず会員番号をお書きください．
- 郵便局窓口で送金されてから学会のデータベースに入力されるまで，1 週間から 10 日かかります．
- 不足料金がある場合，電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが，全員にはご連絡できないことも想定されますので，十分ご注意ください．

③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- 「当日会場で現金で支払い」の場合でも，参加登録を事前にして頂きますと，会場での受付が非常に簡便になります．
- この場合，「参加申込」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択してください．
- その後表示される指示に従って，手続きをお願いします．
- 登録内容が自動的にメールで送信されますので，それをプリントして当日会場受付にお出しください．当日参加票に記入する必要がなくなります．

（3）大会受付票等の送付について

- クレジットカード支払い，あるいは払込・振替で事前送金された参加者には，9 月上旬までに，「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」のダウンロード URL を電子メールでお送りします．
- 大会当日は，電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ちください．
- ただし，電子メールアドレスが登録されていない会員には，大会受付票等が送られませんので，当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上，その旨お申し出ください．

（4）講演論文集のダウンロードについて

- 事前申し込みされた方は，講演論文集を，大会初日の約 1 週間前（09 月 09 日（金）を予定）から大会関係の Web サイトからダウンロード可能になります．

15. 会場の設備について

会場では無線（Wi-Fi）によるインターネット接続が可能です．

口頭発表のすべての会場で，コンピュータの画面を投影できる設備（プロジェクタまたはモニタ）とスピーカが利用可能です．ただし，機器の接続確認は，当該の発表セッション開始 5 分前までに発表者の責任で完了してください．HDMIなどの接続端子は発表プログラム決定後，大会Webサイトでご確認いただける予定です．なお，貸出用コンピュータやOHPは用意されません．

ポスター発表の会場では，幅 90cm・高さ 180cm 程度のポスター掲示用パネルを用意する予定です．パネル周辺に机・電源は用意されませんので，それを前提にした発表準備をお願いいたします．

16. 企業の展示について

大会期間中，企業による製品等の展示も行います．今年は，企業ランチセッションを初日の昼に開催いたします．企業ブースへの出展企業から各３分程度のプレゼンテーションをして頂きます．参加者には，先着150名程度（予定）にランチを提供します．

出展，ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので，ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ（tenji2016@jset.gr.jp）へお問い合わせください．なお，出展・広告申込の第１次締切は，05月27日（金）です．

17. 宿泊について

大会期間中の宿泊施設の斡旋はいたしません．各自でホテルのご予約をお願いいたします．現在，ホテルが大変混雑しているようですので，お早めに部屋を確保されることをおすすめします．なお，会場まで比較的アクセスがよく，ビジネスホテルの複数あるエリアとしては，伊丹空港（大阪空港），江坂，新大阪，十三，大阪（梅田）などがあげられます．

18. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください．

大会企画委員会　　問い合わせ用電子メールアドレス：taikai2016@jset.gr.jp

委員長	寺嶋浩介（大阪教育大学）
副委員長	前迫孝憲（大阪大学）
（五十音順，以下同様）	美馬のゆり（公立はこだて未来大学）
委員	今野貴之（明星大学）
	佐藤喜信（内田洋行）
	西森年寿（大阪大学）
	深見俊崇（島根大学）
	舟生日出男（創価大学）
	松河秀哉（東北大学）
	望月紫帆（奈良教育大学）
	森本容介（放送大学）
担当副会長	鈴木克明（熊本大学）
アドバイザ	山西潤一（本学会会長）

国際学会 ICoME 開催のご案内

●テ　ー　マ：Building relationships and a sense of community in a digital society
●日時・会場：2016 年 08 月 18 日（木）～20 日（土），京都外国語大学
●基 調 講 演：Dr. Charles M. Reigeluth（インディアナ大学名誉教授）
●ウェブサイト：http://icome2016.iwd.jp/

ICoME（International Conference for Media in Education）2016 は，今回で第 14 回目の実施となります．日本教育メディア学会（JAEMS），韓国教育情報メディア学会（KAEIM），中国教育工学会（CAET），アメリカ TCC（Technology, Colleges and Community）オンラインカンファレンスとの連携によって，2016 年 08 月 18 日（木）から 20 日（土）に京都外国語大学にて開催されます．国際交流委員会では，日本教育工学会も共催に加わるよう準備しています．

ICoME は，国内外からの多くの教育研究者や実践者が集まり，教育メディアや教育技術に関する貴重な研究や実践の発表，共有の場となります．本会が，各国の研究者間で行われる互恵的な意見交換の場となりますよう，皆さまのご参加を心よりお待ちしております．

■Research Areas
1）School Media & Technology
2）System/Product Development and others
3）Lesson Study/Teaching Methods and others
4）English Education / International collaborative project
5）Others

■発表論文の募集スケジュール（申込についてはウェブをご覧ください）
・発表概要の提出：05 月 14 日（土）
　※英語 200 語以内
　※概要を運営委員会が確認し，受諾可否を決定いたします．
・発表概要の受諾：05 月 30 日（月）
・最終原稿の提出：06 月 30 日（木）
　※Concurrent Session：４～６ページ（研究者，学校教員，企業関係者）
　※Round Table Session：２～４ページ（大学院生，学部生）
・参加申込の締切：06 月 30 日（木）
　※期日以降の参加申込はすべて当日参加扱いとなります．
　※ご発表の方も参加申込が必要です．お忘れなく申込をお済ませください．

村上正行（京都外国語大学）

日本教育工学会　2016 年度夏の合宿研究会（第一報）

■テーマ
ラーニングコモンズを活用した学びのデザイン

■趣旨
大学を中心にラーニングコモンズの整備が進み，アクティブ・ラーニングが実践されています．そこで，今回の合宿研究会では，これからの学習をより良いものにしていくため，ラーニングコモンズの場を活用したアクティブ・ラーニングをテーマとしました．当日は，話題提供者による実践例の共有を通じて，ワークショップ形式でこれからの学びを検討する予定です．

ラーニングコモンズの活用やアクティブ・ラーニングの実践は，小・中・高等学校でも大きな課題となってきています．大学関係者だけでなく，小・中・高校の教員，図書館や設備を扱う職員など，様々な職種の方のご参加をお待ちしています．

多くの方にご参加頂きたいと考えておりますので，まずは，日程のご案内をさせて頂きます．

■日程　2016 年 08 月 27 日（土）13:00〜08 月 28 日（日）12:30
※宿泊先は，参加者各自で手配下さいますようお願いします

■会場　九州工業大学　飯塚キャンパス　MILAiS
（〒820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4）

■合宿研究会参加費（予定）　3000 円

■募集期間　2016 年 06 月初旬〜2016 年 07 月末
※申込者多数の場合は，早期に募集を締め切る可能性があります

日本教育工学会研究会　http://www.jset.gr.jp/study-group/

研究会の開催

テーマ　高等教育における教育方法・FD・IR／情報教育／一般

●日　時：2016 年 05 月 21 日（土）

●会　場：大阪大学豊中キャンパス
（〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16）

●担　当：大山牧子（m.oyama@celas.osaka-u.ac.jp）

プログラム　発表時間：発表 1 件につき 24 分（発表 19 分，質疑 5 分）

A 会場（HALC1【A212】），B 会場（HALC2【A312】），C 会場（セミナー室 A），D 会場（セミナー室 D），

09:55～10:00　諸連絡

10:00～12:05　午前の部

A1）自律的な授業改善サイクルを促すための教員研修の改善と評価
加地真弥，根本淳子，仲道雅輝，小林直人（愛媛大学），関田一彦，望月雅光（創価大学）

A2）大学院でのオンライン授業における相互評価の信頼性と妥当性の検討
鈴木伸子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）

A3）ゲーミングに基づく教育実践研究を支援する e-portfolio
松田稔樹（東京工業大学大学院）

A4）オンライン大学に入学した社会人学生の学習継続要因－2013 年度から 2015 年度の 3 年間の調査－
田中理恵子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）

B1）教職 e ポートフォリオを活用した観点別自己評価に見る学生の成長過程分析の試み
谷塚光典（信州大学／熊本大学大学院），東原義訓（信州大学），
喜多敏博，戸田真志，鈴木克明（熊本大学大学院）

B2）翻訳トレイン（V2.3）の検索および挿入機能の独自性
柏木肇

B3）研究成果情報の視覚化に係るグローナルモデルの開発と Choquet 積分の活用
北垣郁雄

B4）大学生の将来展望や自己成長感に対する4年間の意識の変化-大学連携による学生意識調査から-
徳野淳子（福井県立大学），田中洋一（仁愛女子短期大学），山川修（福井県立大学）

B5）自己調整学習の計画フェーズを支援するシステム開発と形成的評価
松田岳士（首都大学東京），山田政寛（九州大学），合田美子（熊本大学），加藤浩（放送大学），
宮川裕之（青山学院大学）

C1）小学校におけるタブレット端末を活用したプレゼンテーションスライドの作成・改善を目的とした授業の開発と評価
佐藤和紀（杉並区立高井戸東小学校／東北大学大学院），高橋純（東京学芸大学），
相沢優（株式会社内田洋行），堀田龍也（東北大学大学院）

C2）小学校におけるプレゼンテーションの評価基準の開発と授業実践
木村明憲（京都教育大学附属桃山小学校），佐藤和紀（杉並区立高井戸東小学校／東北大学大学院），髙橋詩穂，若松俊介（京都教育大学附属桃山小学校），堀田龍也（東北大学大学院）

C3）中学校数学教科書における統計的リテラシーに関する記述の比較分析
槇誠司（山形県立村山産業高等学校），堀田龍也（東北大学大学院）

C4）聴覚障害生徒のインターネット・リテラシーに関する調査
内野智仁（筑波大学附属聴覚特別支援学校）

D1）自己調整学習記録と振り返りによる気づき－インタビュー調査を通して－
河野弘美（京都外国語短期大学），谷村緑，ラシェル・メイヤー（京都外国語大学）

D2）小学校遠隔授業の活性化を図る授業設計の一考察
山本朋弘（鹿児島大学），新地辰朗（宮崎大学大学院），清水康敬（東京工業大学）

D3）現職中高教員のより効果的な再教育方法と研修モデルの模索－英語教育における試み－
松本佳穂子（東海大学）

D4）教育工学における「一人称研究」の意義に関する考察
岸磨貴子（明治大学），福山佑樹（東京大学），杉原真晃（聖心女子大学），
尾澤重知（早稲田大学），佐伯胖（田園調布学園大学大学院）

13:05～13:10　委員会挨拶・諸連絡
13:10～15:15　午後の部

A5）「教える技術」講座受講生の受講前後における教える態度の変化
早坂昌子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
A6）数学の主体的な「学び直し」を促す学習者モデルの検討と教材開発
西尾真由子，松田稔樹（東京工業大学大学院）
A7）「教職実践演習」模擬授業（社会科）の記録
藤崎聖也（信州大学）
A8）日本教育工学会全国大会のポスター発表における聴講者移動の比較と検討
江木啓訓（電気通信大学大学院），稲葉利江子（津田塾大学），渡辺雄貴（東京工業大学），
尾澤重知（早稲田大学）

B6）中堅大学におけるアクティブ・ラーニング実施の問題点
山口好和（北海道教育大学），宇田川拓雄（流通科学大学）
B7）外国語学習における反転学習型アクティブラーニングの実践と評価
巻下由紀子（京都外国語大学），梅本貴豊（九州女子大学），村上正行，古川浩一，山﨑その，
村岡孝之，西村政洋，早瀬明，下村秀則，石川保茂（京都外国語大学）
B8）ブレンド型学習が深い学習に及ぼす影響－対面学習，オンライン学習とブレンド型学習の比較を通じて－
胡啓慧（東京学芸大学大学院），野中陽一（横浜国立大学）
B9）学修方法自由選択方式によるアクティブラーニングの試み
藤井厚紀，石橋慶一（福岡工業大学短期大学部）

C5）人間に対する影響に着目した情報メディアの８つの特性-情報モラル教育の視座を決めるために-
村田育也（福岡教育大学大学院）
C6）高校生のインターネット依存傾向が学校生活スキルの諸側面に及ぼす影響とその性差
稲垣俊介（東京都立江北高等学校／東北大学大学院），和田裕一，堀田龍也（東北大学大学院）
C7）教育用 SNS を介した相互評価を取り入れた高校生のプログラミング学習に対する意識調査
菅井道子，堀田龍也，和田裕一（東北大学大学院）
C8）縦糸・横糸モデルに基づく「セキュリティポリシー」 ゲームの改良と情報化で指導すべき内部知識の明確化
上遠野貴広，松田稔樹（東京工業大学大学院）

- 発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催してきました．討論時間を確保するために，持ち時間 24 分において質疑応答の時間を５分以上は確保していただいております．よろしくご理解願います．
- 参加費用：参加費は無料です．研究会報告集の年間予約購読代金（3,500 円）を支払済みの本学会会員以外の方は，報告集代として 1,000 円を当日受付にてお支払いください（**ただし，本研究会受付時に年間予約購読代金の支払済みが確認できない場合には，当日受付にて年間予約購読分の報告集をお渡しすることができませんのでご了承ください**）．また，当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です．なお，年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません．
- 交通案内：阪急「石橋駅」駅から徒歩約 15 分，または，大阪モノレール「柴原駅」から，徒歩約 15 分です．詳しくは，大阪大学全学教育推進機構ホームページの「アクセス」（http://www.celas.osaka-u.ac.jp/access）をご参照ください．
- 昼食案内：昼食時間帯のみ学内の食堂（10:00～15:00）や購買ショップが営業されます．
- 今回研究会後の情報交換会はございません．

研究会の発表募集　　テーマ：教育の情報化/一般

●日　　時：2016 年 07 月 02 日（土）　●会　　場：鳴門教育大学（担当：泰山　裕）
●申込締切：2016 年 05 月 02 日（月）17:00　●原稿提出：2016 年 05 月 31 日（火）17:00

●募集内容：
社会の変化に伴い，教育に求められることも変化しています．ICT を活用した教育や児童生徒の情報活用能力の育成など，情報化社会を生きるために必要な能力の育成を目指す実践研究の成果が蓄積されています．また，学習指導要領の改訂を間近に控え，アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善や，カリキュラムマネジメント，汎用的な資質能力の育成などの重要性が指摘されており，これからの時代を生き抜く子どものための授業設計やそのための学習環境デザインが求められます．

そこで，本研究会では，「SIG-04 教育の情報化」と連携し，教育の情報化をテーマにした発表を募集します．例えば，一人一台の情報端末を用いた学習デザインや情報活用能力の育成のための指導方法やその評価方法に関する研究等が想定されますが，従来通り，上記テーマにこだわらず，広く教育工学一般の発表も募集します．

●申込方法：研究会 Web ページよりお申し込みください．なお，**締切日時が“平日 17:00”までとなっておりますのでご注意ください．**

●原稿執筆：締切後 1 週間以内に，申込時に登録されたメールアドレス宛てに発表の採択結果と執筆要項をお送り致します．

●原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で，研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より，発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録ください．なお，期限までにご提出いただけない場合は，自動的に発表取消となりますのでご注意ください．

今後の研究会のご案内

月日	テーマ	会場	申込締切※	原稿提出締切※
2016 年 11 月 05 日（土）	ICT を活用した学習環境／一般	宮崎大	09 月 05 日（月）	10 月 03 日(月)
2016 年 12 月 17 日（土）	インストラクショナルデザイン／一般	仁愛女子短期大	10 月 17 日（月）	11 月 14 日(月)
2017 年 03 月 04 日（土）	協働的な学びづくり／一般	信州大	01 月 05 日（木）	02 月 06 日(月)

年間予約購読のお勧め

●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）．研究会の受付でも年間講読を受け付けております．

研究会の開催報告

●日　　時：2016 年 03 月 05 日（土）　●会　　場：香川大学
●発表件数：98 件　●参加者数：204 名（内非会員 82 名）

晴天に恵まれ多くの方を香川大学にお迎えすることができました．今回は，電子情報通信学会教育工学研究会との並列開催という形式で開催させていただき，教育工学会研究会には 204 名，両研究会併せて 302 名の方に香川にお越しいただきました．本研究会は，「ICT を活用した学習支援環境・基盤」というテーマで開催されました．時期的に卒論や修論をベースとした学生の研究発表が多く，教育を実践されている先生方と学生の間で活発な議論がなされました．両研究会を行き来しながら発表を聴講される方も多く，普段聞くことのできない様々な分野の研究に触れることができたのではないかと思っています．お昼にはうどん屋をめぐるツアーを企画するとともに，懇親会でも本学生協自慢の手打ちうどんを提供させていただきました．研究会にご参加いただきました皆様をはじめ，開催にあたりご協力いただきました関係各位に深く御礼申し上げます．　八重樫理人（香川大学）

2015 年度　冬の合宿研究会報告

＜冬合宿研究会全体の概要＞

2016 年 02 月 20 日（土）・21 日（日）徳島県，鳴門教育大学地域連携センター１階多目的教室にて，冬の合宿研究会「実践研究のデザインー実践を研究に，研究を実践に活かすー」が開催され，12 名の方々が参加されました．講師として，鳴門教育大学の村川雅弘先生をお招きしました．村川先生からは，実践現場の課題をどのように捉え，どのように関わり，研究としてまとめていくのか，それによって得られた研究内容をどのように現場で活用するのかについて，具体的な研究デザインを考えるワークショップを織り交ぜながら研究会を進めていただきました．村川先生の講義では，複数の事例を基に，実践研究にはモデル化と類型化，ルール化，システム開発という４つの研究的視点があり，それらをツールとして用いることの重要性が説明されました．講義の最後には，理論と実践の往還の４段階（習得・活用・探求・実現），共通点や相違点を見出す枠組み，先人・先行研究に学ぶ，そして，自前のモデルや類型を開発する，事例分析と事例開発を通してモデルや枠組みを検証することが大切であると総括されました．２日目は，和歌山大学の豊田充崇先生，関西大学の久保田賢一先生より，前日のワークショップ・グループでの成果物に対して，コメントをいただきました．最後に参加者の研究計画を練り直すワークショップが行われ，講師陣を含めた意見交換により，個々人の研究計画のブラッシュアップが行われました．

村川雅弘先生による講義

ワークショップの様子

集合写真

＜アンケート結果より＞

講師陣を除く参加者の方々を対象に，事後アンケートを実施しました．講師陣の講義内容に対する満足度が高く，時間配分についても妥当との意見がほとんどでした．自由記述では，ワークショップの時間を十分にとって論議することができ，他の研究者からのフィードバックがあったこと，具体的な説明によりノウハウを習得できたこと，またモチベーションの向上につながったとの記述が多くありました．これらから，事例を用いた実践的な内容の講義と，十分に議論する時間が確保されたワークショップにより，プログラム全体に対する評価が高くなったと考えます．また，講師からの丁寧な説明や参加者間で同じ悩みを共有できたことへの満足感を示す記述が複数ありました．さらに充実したプログラムおよび運営とするために，今後の企画委員の活動に活かしていきたいと思います．

【問１】今回の合宿プログラムの内容は満足のいくものでしたか？
　　とてもそう思う（８名），そう思う（２名），そう思わない（０名），全くそう思わない（０名）
【問２】講師や他の参加者と十分な議論をする場は用意されていましたか？
　　とてもそう思う（８名），そう思う（２名），そう思わない（０名），全くそう思わない（０名）
【問３】プログラムの時間配分は適当なものでしたか？
　　とてもそう思う（８名），そう思う（２名），そう思わない（０名），全くそう思わない（０名）
【問４】この研究会を何で知りましたか？
　　学会 HP（５名），フェイスブック等 SNS（０名），ニューズレター（６名），その他（０名）

報告：泰山 裕（鳴門教育大学）

2015 年度　大学教員のための FD 研修会の報告

この研修会は，本学会がこれまでの知見を活用し，大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与することを目的に，2008 年度から実施している．今回は，SIG-01（高等教育・FD）および SIG-07（インストラクショナルデザイン）との共催で，2016 年 03 月 07 日（月）に東京工業大学大岡山キャンパスで，33 名（大学教員・職員・大学院生）が参加して開催された．研修は 2011 年度から好評を得ている内容を踏襲し，大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）として，「大学授業デザインの方法－１コマの授業からシラバスまでー」をテーマに実施された．テーマおよび運営方法，実施規模は 2014 年度と同様であった．担当講師として，鈴木克明（熊本大学），根本淳子（愛媛大学），岩崎千晶（関西大学），市川　尚（岩手県立大学），村上正行（京都外語大学），渡辺雄貴（東京工業大学）が参加した．

研修のデザインとして，前年度変更を行った，主にインストラクショナルデザインの諸原理に関する講義部分を e ラーニングとして事前学習に充てることで，対面研修を半日のワークショップとする「反転授業」形式の研修としたが，概ね混乱もなく，受講者全員が事前学習を行っていた．ワークショップでは，それぞれが所定のワークシートに要約した授業実践事例を持ち寄り，授業のデザインに関する問題意識の明確化，授業のデザインに関する情報・課題の共有などから議論を始め，「何を誰に教えようとしているのか」，「どんな方法で教えるのか」，「続けたい点・変えたい点は何か」などをペアワークやグループで議論しながら授業の改善案を考えた．

昨年度からの変更点として，従来の研修を受講し修了証を受け取った受講者のうち，本学会会員を対象にファシリテータとしての認定を目指した「ファシリテータ研修」を同時に行なったことがあげられる．ファシリテータ研修には 9 名が参加し，FD 研修と同じ日に同じ会場で，午前中に基本的なファシリテーション技術や，本研修の進行ポイントなどを学んだ．さらに，午後の FD 研修にファシリテータ見習いとして参加し，FD のアドバイスを受けながらペアワークやグループワークをモデレートした．

FD 研修・ファシリテータ研修のどちらも最終レポートが課せられ，合格した参加者には，FD 研修の修了証・ファシリテータとしての認定証がそれぞれ発行される予定である．

参加者に対するアンケートでは，５段階評価（５＝大変よい～１＝悪い）で「研修会の広報」のみ平均が 4 を下回った（FD 研修参加者平均値 3.89）が，「動画視聴等の反転学習」（同 4.45），「研修時間（半日）」（同 4.55）を含む他の評価項目の平均値はすべて 4 を上回り，おおむね高い評価を得られた．

FD 研修に対しては，従来の年１回より多くの開催を求める声があり，対面研修の時間を短くしたことやファシリテータ認定を開始したことは，研修実施の機会拡大を探るものである．

次回は，2017 年 03 月 06 日（月）東京工業大学大岡山キャンパスで実施する予定である．詳細が決まり次第，ニューズレターおよび学会ウェブページなどで告知する．

報告：渡辺雄貴（東京工業大学）

写真上：ファシリテータ研修（午前）
写真下：FD 研修（午後）

特別企画（実践研究活性化）セミナー 開催報告

○日時：2016年03月13日（日）10:00～16:00
○会場：岐阜大学サテライトキャンパス「多目的講義室」
○プログラム
１．趣旨説明・パネルディスカッション「教育工学の知見を学校現場にどう還元しているか」
　　村川雅弘（鳴門教育大学），三橋功一（北海道教育大学），小柳和喜雄（奈良教育大学），
　　寺嶋浩介（大阪教育大学）
２．参加者全員による自己紹介を兼ねた研究・研修計画の紹介
３．ワークショップ：「教育実践研究構想等の練り上げワークショップ」
４．全体発表（ワークショップ各チームから代表１人 事例の成果発表・検討）
５．総括・閉会（アンケート記入等）

教育工学の知見を学校現場に還元することを目的として本セミナーを開催した．セミナーには「学校教育における実践計画等について，教育工学的方法により検討（練り上げ）した上で，実践したい」「学校において実践後に，実践を振り返り，評価や類型化・モデル化，改善等を試みたい」「実践の成果等を研究会や全国大会などで発表を予定している」などの課題をもつ人が集まった．参加者は，教育実践に関心を持つ研究者，大学院生（修士課程・専門職学位課程修士・博士課程在学），現職教員，教育委員会の指導主事など約30名である．終日，教育実践研究構想等の協議・検討を行った．

１．セミナー趣旨説明・パネルディスカッション「教育工学の知見を学校現場にどう還元しているか」

教育という複雑な事象は，整理・分析し，類型化・モデル化することにより可視化できる，効率化・伝達可能性・積み上げ可能性が図れる，という基調提案がなされた．各パネラーからは，授業設計や学力調査等に関する研究・実践を整理・分析し，類型化・モデル化・可視化し，理論やモデル，システムを対比することにより問題を明確にすることにより，解決を図る研究事例が紹介された．

３．ワークショップ：「教育実践研究構想等の練り上げワークショップ」

セミナー受講者から事前に提出された検討資料（研究計画・実践結果等）を基に，「（a）中学校：アクティブ・ラーニング・道徳等，（b）中学校：学び合い・アクティブ・ラーニング，（c）小・中学校の教科の学び（算数・数学等）：学び合い・アクティブ・ラーニング，（d）カリキュラム・マネジメント（右写真），（e）大学教育等における学び合い」の５チームを構成した．ワークショップは，特別企画委員会委員の進行で，各チーム４～５件の研究計画・実践結果等の提案・報告について，研究目的，研究計画の立て方，データ収集・分析方法等の具体化・事例等について，教育工学の視点からの協議（練り上げ・整理）が行われた．

◇参加者の評価（アンケート）
（１）パネルディスカッション
「教育工学という見方・考え方が見えてきた」「教育現場の実践を元に理論を求める考えに共感した」「実践を整理・類型化し，モデルと対比し評価することがわかった」「現場の実践は，理論化により，同じことの繰り返しを減らしていけると感じた」
（２）ワークショップ
「深い話し合いで曖昧な捉えが焦点化され，研究の問題点がみえてきた」「他の方の研究の悩みを聞き・質問し，自分の研究に活かすことができる」「委員の先生方の的確なアドバイスはよかった」「PDCA等のモデル活用の具体がわかった」
（３）総合評価
５段階評価で大部分が評価５（評価４が若干）であり，開催方法等の方向が見えてきたと思われる．

◇平成28年度 全国大会開催時に「本セミナーの評価と今後の取り組み」について検討することとなった．参加者，委員の方々のご協力で有意義なセミナーとなりました．お礼申し上げます．

報告：三橋功一（北海道教育大学），企画委員会

2015 年度　産学協同セミナー報告

本年度の産学協同セミナーは，「デジタル教材・学習記録の規格標準化の動向と今後～教育工学の立場から学習記録データの活用を考える」と題して 2016 年 03 月 26 日（土）に，（株）内田洋行ユビキタス協創広場 CANVAS に約 100 名の来場者を迎え開催された．

ICT を活用した学習活動が増えてゆくなかで，蓄積された学習記録データを分析し，学びの質や方法の改善，評価につながることが期待されている．特に学習記録データを分析・解析・活用していくための「学習ビッグデータ分析（LA：Learning Analytics）」が注目され，デジタル教材や学習履歴に関する国際標準化は急速に進んでおり，標準化団体でのワーキング・グループや研究学会の新規設立などの動きが活発である．日本国内でも近年これらの標準化に向けて産・官・学の動きが盛んとなり，検討が進んでいる．

今回の産学協同セミナーでは，デジタル教材や学習記録データの国際標準化，学習記録データによる学習解析，研究学会の状況，学習理論からみた活用の意義について情報共有をするとともに，今後アクティブ・ラーニングなどの「学習者が主体的に取り組む学習者中心の学び」の中での学習記録データの必要性について考え，現時点での課題を明確にし，デジタル教材や学習記録データの標準化の在り方や，集め方，解析の方法等，蓄積されたビッグデータの活用方法について，産・学それぞれの立場から幅広く議論を展開した．

下川和男氏（日本電子出版協会［JEPA］副会長・イースト株式会社社長）からは，「デジタル教材等の企画標準化の意義と動向」として，書籍のデジタル化の歴史と，標準規格である EPUB の紹介に加えて，デジタル教材を取り巻く標準化の歴史と各国・各団体の最新動向に関する情報提供が行なわれた．

EPUB は現在，国際標準化（ISO）に向けた作業が進行中である．韓国政府（韓国学術情報院：KERIS）はデジタル教科書に EPUB を採用しており，電子教科書の WTO 国際入札などの対応を視野に入れて，標準化作業に積極的な役割を果たしている．EPUB は Web 標準技術との関連が深いため，最近のブラウザは W3C の活動により EPUB を標準サポートする方向である．ヨーロッパでは EPUB の制作センターが開設され，大手出版社は CMS で EPUB コンテンツを管理している．

デジタル教材の標準化に関する最近の動向として，EPUB をベースにした EDUPUB 規格，文部科学省・総務省のプロジェクトの動向，教科書のデジタル化を前提とした際の法令・検定等に関わる文部科学省の検討状況や，教科書出版社の動向とプラットフォーム戦略が招介された．

最後に教育 ICT の問題点として，１）一人一台の財源，２）クラウド化への地方自治体の不安，３）標準化が進まないことが指摘された．特に JEPA 内で検討した標準化の課題として，単元 ID の標準化，学習履歴の標準化，教科書フォントの無償配布，が挙げられた．

田村恭久氏（上智大学教授）からは，「学習ビッグデータ分析の意義と最新動向」として，Learning Analytics (LA)の研究・実践に関する動向が紹介された．

LA の基本的な枠組みは，データ収集，データ蓄積・フィルタリング，分析，出力/フィードバックの４つの要素に関わる技術・機能として整理することができる．また，学習履歴データの分析・活用は研究的としてはかなり以前から行われていることであるが，時代とともに電子的に取得できるデータの種類が増すと同時に，より粒度の細かいデータを取得できるようになってきているこ

とが特徴である．LA の実際に活用されている例としては，学習スタイルの推定，退学の予兆検出などがあり，教育評価へのエビデンス付与，学習の個別化への寄与，学習過程（プロセス）の明瞭化が意義として挙げられる．

LA は，受講者の状況把握が自動化・半自動化され，教員の授業運営が客観的なデータによって可視化されるというインパクトを持っている．一方で，LA は専門の国際会議が発足して数年しか経っておらず，研究開発の途上段階であり，学習支援等の実務に適用可能なフレームワーク構築や教育・学習の視点からの議論はこれからの状況である．国際的には LA データ記述に関する標準化も進行していると同時に，プライバシーガイドラインの作成も進んでいることが報告された．

森本康彦氏（東京学芸大学准教授）からは，「学習記録データの活用が教育を変える」と題し，学習記録データの活用によって可能になる学習・評価に関する情報提供が行われた．

現代においては，教師中心から学習者中心への教育観のパラダイム変換により，経験による学習，知識を自ら構成すること，継続的なパフォーマンスの評価が重要となっている．学習ログ・学習記録データを蓄積・活用することを e ポートフォリオの活用としてとらえると，それらは，学習・評価を促進させるツールになるとともに，学習成果のエビデンスとして利用することができる．ポートフォリオはアナログでも利用されているが，デジタル化することで保存や加工が簡単になり，コンピュータの計算/推論機能でデータ分析を行い教育に活用できる可能性が高まっている．

学習記録データは，コンピュータが自動的/自律的に取得可能な学習履歴と，学習者自らの入力を伴う意図的な活動によって収集される学習記録の２つに整理することができる．これらの利活用場面としては，気づき・振り返り，学習評価，学習状況把握，学習支援，授業改善，キャリア形成，シームレスな学び，アカウンタビリティ，教材開発，教員の専門性育成，教育の質保証，教育ネットワーク構築，など多面的・多義的であることが示された．

第二部では山西潤一氏（本学会会長）をコーディネーターとして，第一部の講師３名とパネルディスカッションが行なわれた．会場からの各種質問・意見を受け，第一部を振り返るとともに，山西氏からの文部科学省の学習記録調査研究事業の報告を交え，学習記録データに関する議論が行なわれた．

LA や学習記録データの活用に関連する研究成果については，1980 年代の知的 CAI 研究や 1990 年代の CSCL 研究に多くの知見があることが示唆された．また，それらの技術が実際に導入されつつある環境においての，学習記録データのオーナーシップ，データの保存場所，データ間連携に必要な標準化，学習者の理解のプロセスとそれを測定するためのインタフェースの可能性，複数権利者の著作権処理の問題など，クラウド・セキュリティ・個人情報・著作権・エビデンスに関する幅広い論点が提示されるとともに，教師に求められる技能や資質がどのように変容するのかなど，新たな視点に基づく問題提起も行なわれ，熱のこもった議論が展開された．

報告：奥田　聡（富士通）

SIG 研究会の開催報告　SIG-02 教師教育・実践研究

第３回研究会
●日時・会場：2016 年 02 月 16 日（火）15:00～17:00，東京学芸大学，参加者数：55 名
●テ　ー　マ：「教師の学びと実践研究」
●プログラム：「教師の学びにとっての実践研究の意義」
　シンポジスト　植田和也（香川大学）「教師のライフヒストリーからみたキャリア発達の検討」
　竹内　元（宮崎大学）「校内研究の活性化と実践研究」
　長谷川哲也（静岡大学）「教職大学院における授業と実践研究の再検討」
　指定討論者　寺嶋浩介（大阪教育大学）
　コーディネータ　益子典文（岐阜大学），島田　希（高知大学）

SIG-02 教師教育・実践研究の第３回研究会を，2016 年 02 月 16 日に開催しました．今回は，東京学芸大学で開催された国立大学教育実践研究関連センター協議会・教育実践・教師教育部門との連携のもとで行われました．

まず，「教師の学びにとっての実践研究の意義」というテーマのもと，３名のシンポジストからの報告がなされました．植田先生からは，交流人事教員（実務家教員）として大学で活動した６名のライフヒストリーの分析をもとに，自立的に学び続ける教師を支える要因が提案されました．竹内先生からは，宮崎大学における「授業力向上フォローアップ事業」「校内研修活性化モデルプログラム事業」をもとに，研究に対する教師の捉え方をいかに転換し，日常の実践と研究を結びつけていくのか，さらにはそのための方策について提案がなされました．長谷川先生からは，教職大学院における授業等に関する調査結果が，ストレートマスター・現職教員の学び，研究者教員・実務家教員の役割という２つの観点で整理がなされ，教職大学院を「違いある人々」が混在する教育空間として捉え直す必要性が示されました．

これら３つのご報告をうけて，指定討論者の寺嶋先生より，交流人事教員のライフヒストリーにみられた特徴の一般性，実践研究を充実させるための大学および教職大学院の役割や特徴に関する問いが提起され，シンポジストとのディスカッションが展開されました．

その後，本シンポジウムへの参加者も加わりながら，「学び続ける教員」の特徴をいかに捉えることができるのか，教師の学びを促す源泉となるものは何なのか，様々なニーズや参加動機をもった人々が教職大学院に集ってきた場合，それらにいかに対応していくのか等，活発な議論が行われました．

最後となりましたが，ご登壇いただいた先生方およびご参加いただいた皆様，そして本シンポジウムの開催にご尽力下さった皆様に御礼申し上げます．SIG-02 教師教育・実践研究の次回研究会は，2016 年 05 月 22 日（日）に大阪大学にて開催される予定です．皆様，ぜひご参加ください．

担当：島田　希（高知大学）

SIG 研究会の開催報告　SIG-09 質的研究

質的研究 SIG-09 では，2016 年 02 月 22 日（月）から 26 日（金）まで質的研究ウィークを実施し，教育工学における質的研究を学ぶセミナーを連続で実施しました．

第１回セミナー
●日 時 ・ 会 場: 2016 年 02 月 22 日（月）13:00～18:00，関西大学東京センター，参加者数：20 名
●テ　ー　マ：「教育工学における一人称研究」
●講　　師：佐伯　胖（田園調布学園大学教授/東京大学・青山学院大学名誉教授）
●コーディネータ：岸磨貴子（明治大学），福山佑樹（東京大学），杉原真晃（聖心女子大学），
尾澤重知（早稲田大学）

第１回目セミナーでは，JSET の全国大会のシンポジウムで佐伯胖先生にご紹介いただきました「一人称研究」および「二人称研究」に関する３冊を輪読し議論するセミナーを実施しました．一人称研究・二人称研究は人の主観の探求を通した知の研究です．３冊は多すぎるというご意見もありましたが，３冊だったからこそ横断的にみえたところも多く，充実した議論を通して，たくさんの気づき，問い，研究及び実践に対する視点を持つことができました．特に，「一人称研究だからこそ見えてくること/分かってくること」の理解が深まり，教育工学にこの視点が必要であることを再確認することができました．本セミナーにおいて議論したことをまとめたものを，５月の日本教育工学会研究会（大阪大学）で発表する予定です．

第２回セミナー
●日 時 ・ 会 場: 2016 年 02 月 23 日（火），24 日（水）13:00～17:00，明治大学，参加者数：20 名
●テ　ー　マ：「教育工学における観察を通した研究の技法」
●講　　師：箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授），時津倫子（明治学院大学等非常勤講師）
●コーディネータ：岸磨貴子（明治大）小高さほみ（青山学院大学等非常勤講師）

質的研究ウィーク第２回目セミナーでは，教育工学における観察を通した研究の技法について実施しました．講師として箕浦康子先生，ファシリテータとして時津倫子先生をお迎えし，フィールドワークの技法について学びました．１日目はデータ収集，２日目はデータ分析を通してどのように質的研究の問いを立てるかを学びました．箕浦先生の講義では，フィールドワークの意義，歴史，認識論，方法論をはじめ，注意点，他の方法論との違い，研究のフォーカス，フィールドワークにおけるリサーチクエスチョンの立て方，工夫などをひとつひとつ丁寧に教えていただきました．ファシリテータの時津倫子先生には，セミナーでてきた疑問に丁寧に答えていただきました．２日目には，セミナーの１時間前から集まり自主勉強会がはじまりました．またセミナーのあとにも有志で議論がはじまり 18:30 まで続きました．

第３回セミナー
●日 時 ・ 会 場: 2016 年 02 月 25 日（木）13:00～17:00，明治大学，参加者数：20 名
●テ　ー　マ：「質的データの分析と解釈」
●講　　師：箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）
●コーディネータ：岸磨貴子（明治大学），小高さほみ（青山学院大学等非常勤講師）

質的研究 SIG 第３回目セミナーでは，第一次コーディングが終わった段階でのリサーチクエッションの組み換えについて学びました．　具体的には，箕浦康子先生にご提供いただいたデータを，デモンストレーションを交えて実際に分析，解釈，考察するプロセスを体験しました．質的なデータ収集後の手順を，箕浦先生ご自身のご経験や論文指導の際の様々なエピソードを交えながらご説明いただき，具体的に理解することができました．　「Open Cording は，データを深く読むための手段」「分析者の先入観，不安，未解決な個人的な問題などによるバイアスを避ける」ということがどういうことかを体験を通してとてもよく理解することができました. また, Open Cording のあとにリサーチクエスチョンを立て, そこからデータを改めて見直し，軸足コード化を通して分析の過程を理解するだけではなく，混沌とした生データから理論が見いだされていく感動や驚きも感じることができました．

第４回セミナー
●日時・会場：2016 年 02 月 26 日（金）13:00～17:00，明治大学，参加者数：18 名
●テ　ー　マ：「教育工学における質的研究の論文作成検討会」
●講　　師：箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）
●コーディネータ：岸磨貴子（明治大学），小高さほみ（青山学院大学等非常勤講師）

質的研究 SIG 第４回目セミナーでは，教育工学分野における質的データを，参加者からご提供いただき，参加者全員で分析，解釈を行いました．扱った事例は（１）料理サークルにおける発話分析（インフォーマル学習），（２）NHK の教育番組を活用した授業分析，（３）思考スキル育成のための授業実践のフィールドノート分析です．はじめに（１）の発話を全員で分析しました．実際に分析してみると，フィールドノートに「何を」「どのように」記録すべきかがよくわかってきました．箕浦先生の「10 年たってもその情景が明確に見えてくるようなフィールドノーツ」というご指導に，記録について考えさせられました．次に，（２）と（３）のデータを分析しました．３～４人が１グループになってデータを分析しました．前日と同様に同じデータからでも様々なリサーチクエスチョンが立ち現れ，参加者一同大変驚き，感動しました．軸足コードまで全員で行い，「何かが見えてきそうなところ」でセミナーを終了しました．最後に，箕浦先生からデータの分析と解釈の結果をもとに理論的示唆をご提示いただきました．データの分析と理論の関連も含めて，質的研究の奥深さを実感しながら深く理解できたセミナーとなりました．

担当：岸磨貴子（明治大学）

SIG 研究会の開催報告
SIG-08 メディア・リテラシー，メディア教育

第 2 回研究会
●日時・会場：2016 年 02 月 27 日（土）13:00～20:30，熊本大学くすのき会館，参加者数：53 名
●テ　ー　マ：ソーシャルメディア時代のメディア教育
●プログラム
講演　講師：中橋　雄（武蔵大学）
パネルディスカッション　コーディネータ：土屋祐子（広島経済大学）
パネリスト：中川一史（放送大学），中村純子（東京学芸大学），宇治橋祐之（NHK 放送文化研究所）
メディア教育の授業実践報告　報告者：山口修一（熊本市立弓削小学校），西尾　環（熊本市立五福小学校），大久保弘子（熊本市立白川小学校），澤　栄美（同小学校）
映像ワークショップ　コーディネータ：宇治橋祐之（NHK 放送文化研究所）
エンターテインメントプレゼンテーション　プレゼンタ：中村純一（佐賀市立大和中学校）

2016 年 02 月 27 日（土）に熊本大学で第２回研究会が開催され，53 名の方に参加していただくことができました．今回の研究会は，熊本大学教育学部情報教育研究会との共同開催で，ソーシャルメディア時代のメディア教育について研究者と現場教員が研究交流を行う場となりました．

前半では，SIG 代表の中橋雄先生（武蔵大学）から「メディア・リテラシーとは」という演題で講演をいただきました．次に，中川一史先生（放送大学），中村純子先生（東京学芸大学），宇治橋祐之先生（NHK 放送文化研究所）の３人のパネリストとコーディネータの土屋祐子先生（広島経済大学）による「メディア教育研究の蓄積と展望」というテーマのパネルディスカッションが行われました．ICT 活用，国語教育，放送教育という３つの立場でのメディア・リテラシー育成について活発な議論が展開され，成果と今後の課題が明らかになりました．学会レベルの議論を現場教員が知る良い機会となりました．

後半は，山口修一先生（熊本市立弓削小学校），西尾環先生（熊本市立五福小学校），大久保弘子先生（熊本市立白川小学校），澤栄美先生（同小学校）による授業実践が報告されました．続いて，宇治橋祐之先生によるスマートフォンを用いた映像ワークショップによって，参加者全員が映像制作を楽しく学びました．最後は，懇親会を行いながら完成した作品を視聴し，中村純一先生（佐賀市立大和中学校）によるメディアを使ったクイズゲームを堪能しました．現場の実践知を共有するための絶好の機会となりました．

今回の研究会を通じて，研究者の学問知と現場実践家による実践知がむすびつけられ，新たな知のネットワークが形成されました．今後の研究会では，そのネットワークを生かしながら研究を深めていきたいと考えています．

担当：前田康裕（熊本市立向山小学校）

日本教育工学会第 16 期第 7 回理事会議事録

日時：2016 年 03 月 19 日（土）
場所：JAPET&CEC　会議室
出席（参加）：理事　山西潤一 会長，中山　実 副会長，吉崎静夫 副会長，稲垣　忠，植野真臣，加藤　浩，木原俊行，寺嶋浩介，永岡慶三，永田智子，南部昌敏，平嶋　宗，堀田龍也，前迫孝憲，益子典文，美馬のゆり
監事　永野和男
総務委員会　北澤　武，姫野完治，室田真男
事務局長　赤松伊佐代

（合計 21 名）

1．前回の理事会議事録の承認について
第 16 期第 6 回理事会議事録について原案が提示され，承認した．

2．新入会員の承認について
2016 年 01 月 10 日から 2016 年 03 月 19 日の会員の移動状況について報告があり，承認された．結果，2016 年 03 月 19 日現在の総会員数は，2,943 名となった．

3．各種委員会から
（1）　編集委員会
論文誌編集進捗状況の報告があった．
（2）　研究会委員会
03 月研究会についての報告と，今後の研究会開催テーマについて経過報告があった．
（3）　企画委員会
02 月に開催された冬の合宿研究会の報告，03 月に開催予定の産学連携セミナー，および，06 月に開催予定のシンポジウム，08 月に開催予定の夏の合宿についての経過報告があった．
（4）　大会企画委員会
第 32 回大会の日程，変更点，シンポジウムについて経過報告があり，承認した．また，今大会の講演論文集を USB メモリに変更することについて協議し，承認された．
（5）　国際交流
ICoME2016 との連携について報告があった．
（6）　特別企画（実践研究活性化）委員会
03 月に開催された実践研究活性化セミナーについて報告があった．
（7）　広報委員会
ニューズレター213 号（04/21 原稿締切）および 214 号（05/19 原稿締切）の台割案の提案があり承認した．また同時に配付資料に基づく原稿執筆の依頼があった．
（8）　選書委員会
教育工学選書第 1 期，第 2 期の進捗状況について報告があった．
（9）　選挙改革委員会
選挙改革委員会の検討状況について報告があり，それをもとに協議を行った．

4．総務・会計
（1）　将来構想 WG 報告
学会として学術大型研究計画に応募することについて協議を行い，承認した．
（2）　年度末決算について
年度末決算・次年度予算提出日程に関する依頼があった．
（3）　第 4 回教育関連学会連絡協議会総会報告
標記総会についての報告があった．

5．その他
（1）　以下の協賛依頼を承認した．
●「平成 28 年度工学教育研究講演会」協賛および会告掲載と研究発表推奨について
（公益社団法人日本工学教育協会　より）
（2）　連絡事項・郵送物を確認した．
（3）　今後の理事会日程を確認した．

新入会員

（2016 年 01 月 10 日～2016 年 03 月 09 日）
18 名（正会員：8 名，学生会員：10 名）

■ 正会員（8 名）

小松崎浩司（茨城女子短期大学）
角田はる美（白鳳短期大学）
武田香陽子（北海道薬科大学）
加納亜紀（聖泉大学）
有賀清一（桜美林大学）
高田　拓（高知工業高等専門学校）
西村洋一（北陸学院大学）
竹前俊昭（国立研究法人 宇宙航空研究開発機構）

■ 学生会員（10 名）

北川周子（熊本大学大学院）
畠野真理子（東洋大学，文学部）
遠田将大（早稲田大学大学院）
関本春菜（関西大学大学院）
原川　翼（東京電機大学大学院）
堀川千遥（東京電機大学大学院）
飯塚康友（東京学芸大学，教育学部）
田村領太（上越教育大学大学院）
徳岡　大（広島大学大学院）
土性香那実（早稲田大学大学院）

◎学会日誌

２０１６年

・２０１６年０５月２１日（土）
研究会「高等教育における教育方法･FD･IR」（大阪大学）

・２０１６年０５月２２日（日）
SIG02　教師教育・実践研究 第４回研究会「教師の学びを促す環境と人事」（大阪大学）

・２０１６年０６月１８日（土）
第 32 回通常総会及びシンポジウム
（大阪マーチャンダイズビル）

・２０１６年０７月０２日（土）
研究会「教育の情報化」（鳴門教育大学）

・２０１６年０８月２７日（土）
夏の合宿研究会（九州工業大学）

・２０１６年０９月１７日（土）～１９日（月・祝）
第 32 回全国大会（大阪大学）

・２０１６年１１月０５日（土）
研究会「ICT を活用した学習環境」（宮崎大学）

・２０１６年１２月１７日（土）
研究会「インストラクショナルデザイン」
（仁愛女子短期大学）

◎国際会議の案内

２０１６年

・EdMedia 2016
http://www.aace.org/conf/edmedia/
(6/27 – 30, Vancouver, Canada)

・EDM 2016
http://www.educationaldatamining.org/EDM2016/
(6/29 – 7/2, Raleigh, NC, USA)

・HCI International 2016
http://2016.hci.international/
(7/17 – 22, Toronto, Canada)

・ETWC
http://seminars.unj.ac.id/etwc/
(7/31 – 8/3, Bali, Indonesia)

・ICoME 2016
http://icome2016.iwd.jp/
(8/18 – 20, Kyoto, Japan)

・AECT INTERNATIONAL CONVENTION
http://aect.site-ym.com/?futureevents
(10/17 – 21, Las Vegas, USA)

・E-Learn 2016
http://www.aace.org/conf/elearn/
(11/14 – 16, Washington, DC, USA)

・ICCE 2016
http://www.et.iitb.ac.in/icce2016/
(11/28 – 12/2, Bombay, India)

お問い合わせ先 E-mail

● 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp

● 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp

● 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2016@jset.gr.jp

● 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp

● ニューズレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp

● その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

担当副会長　：中山 実（東京工業大学）
広報委員長　：堀田 龍也（東北大学）
広報副委員長：山内 祐平（東京大学）
幹事：高橋 純（東京学芸大学）
委員：池尻 良平（東京大学）
石塚 丈晴（福岡工業大学短期大学部）
冨永 敦子（公立はこだて未来大学）
脇本 健弘（横浜国立大学）

E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
http://www.jset.gr.jp
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニューズレター
No. 213
2016年５月６日

発行人●会長 山西 潤一（富山大学）